

力を合わせて仕事をしよう

生活指導部 齋藤 文子

各学級では、掃除当番や給食当番等で友達と協力して仕事を行います。ほうきでごみを掃く人、机を運ぶ人、机の上を水拭きする人、ごみを捨てに行く人等、担当に分かれて各自が任された仕事をする事で、15分後には教室がきれいになります。高学年は、委員会活動で全校児童が心地よく過ごせるために仕事をしています。例えば、校庭の出入り口にある一輪車や竹馬の整理整頓や体育倉庫は運動委員会で片付け、また、手洗い場の洗剤の詰め替えは保健委員会で行っています。一人ではできることが限られてしまいますが、このようにみんなで協力して仕事を行うことで、校内全体が心地よい環境づくりにつながります。今後も継続して取り組めるよう指導していきます。

「読書の秋」に思うこと

副校長 坪井 由賀里

私が小学生の頃の誕生日プレゼント、クリスマスプレゼント等、親からの贈り物には、必ず1冊の本が添えられていました。「なぜ、この本を選んでくれたのかな」という問いの答えを探りながら読み耽っていたことを今でも覚えています。これが私が読書好きになったきっかけです。

通学した小学校の図書館では、名作コーナーの本を片っ端から読みました。中でも「芥川龍之介名作集『鼻』」の魅力にはまり、何度も何度も暗記するぐらい読みました。長い鼻を短くする過程の何とも気持ちよさそうな表現が今でもぞくぞくするほど好きです。登場人物の複雑な人間心理が印象に残る物語でもあります。これが読書の楽しさを教えてくれた思い出の一冊の本です。

読書について子供から学んだこともあります。かつて、小説を書いたり新聞豆記者をしたりと得意の作文力を生かして活躍していた子がいました。その子は読書の習慣として、同じ本を必ず2回は読むことにしています、と話していました。1回目で物語の大枠を捉え、2回目は細かい表現まで味わいながらじっくりと読むことで、1冊の本を満喫できるそうです。試しに私も2度読んでみると、なるほど以前はぼやけていた場面が輪郭をくっきりとさせ浮かび上がらせてくれるようで、そこから作者の思いもじわじわと伝わってきます。全ての本というわけにはいきませんが、今でも時々この方法を試して楽しんでいます。

これから秋の読書週間が始まります。「図書ボランティア」や「ポケットの会」の方々も活動を始めてくださっています。子供たちがたくさんのお本に出合えるよう、陰で支えてくださっている方々に感謝しながら、さらに読書に親しんで人生を豊かなものにしてほしいと願っています。

ミニコンサート 10月16日 プログラム



1. 2年1組 山本 心 ピアノ独奏 「ミッキーマウスマーチ」
2. 2年2組 古宮 明莉 ピアノ独奏 「エンターティナー」
3. 2年2組 呂 昊軒 ピアノ独奏 「フラメンコ」
4. 2年2組 浮田龍之介 バイオリン独奏 「おどりのうた」
5. 2年2組 中村 碧 ピアノ独奏 「ウイナーワルツ」
6. 3年2組 大塚 杏珠 ピアノ独奏 「ダンス」
7. 3年2組 中条 美絵 ピアノ独奏 「エリーゼのために」
8. 4年2組 長谷川明咲 ピアノ独奏 「素直な心」
9. 6年2組 小倉 千宙 ピアノ独奏 「リベルタンゴ」

